



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

広大な畑を背景にして、祈る一組の夫婦。夕暮れ、収穫したじやがいもが手押し車に積み込まれ、遠くには教会の塔が小さく見える。ジャン・フランソワ・ミレーの名画『晩鐘』。原題は「アンジェラス・ドミニ」――「主の天使の祈り」という意味だそう。日に3度鳴らされる鐘の音を合図に、人々はこうべを垂れ祈りを捧げた。ミレーはこの祈りを、幼いころ、祖母の手から教わったという。夕暮れ、遠くの教会の鐘が鳴ると、畑の中でも手を休め、帽子を脱いで立ち止まった祖母の姿をミレーは生涯忘れなかったのだ。

『晩鐘』に描かれるのは、まさにその祈りの瞬間である。一日の労働を終えた農夫と妻が、夕焼けの畑の中で立ち止まり、頭を垂れ、祈る姿。そこにあるのは静寂である。しかしその静けさは決して虚無の静けさではない。労働を終えた静けさの内に、神の臨在が訪れる聖なる沈黙の時なのだ。晩鐘、アンジェラスの鐘の音の響きが、絵を通して、わたしたちにも響いてくる。主は言われる。「神の国は、ある人が地に種をまくようなものである。夜昼、寝起きしている間に、種は芽を出して育つて行くが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。地はおのずから実を結ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。実がある、すぐにかまをを入れる。刈入れ時がきたからである」(マルコ4:26-29 口語訳)。

瞑想

実が熟すると、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。

(マルコ4:29)

主幹牧師 榎本 恵

人の労苦は、神のいのちの働きのための「場」を整えることにすぎない。けれども、その「すぎない」ことの中にこそ、信仰の尊さがある。人は、自らの手で結果を急ぐことをやめ、神の時を待つ者となる、ここに信仰者の姿がある。夜の静けさの中でも、大地は働き続け、眠っている間にも、見えないところで芽が育ち、根が張り、茎がのびる。神の国もまた、そのようにして成長するのだ。人の目には見えないが、しかし確かに、沈黙のうちに神の国のいのちは動いているのだ。

「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は、束ねた穂を背負い、喜びの歌をうたいながら帰ってくる。」(詩篇126:6)。旧約の詩人はこう歌った。捕囚の地より帰還した故郷の大地は荒れ果てていた。しかし、その土地を再び耕し、涙を流しながら、種を蒔いた者の涙の中に、やがて神の約束が芽生える。涙と喜び。沈黙と歌。そして夜と朝。それが人の歴史を貫くリズムであり、私たち信仰者の姿なのだ。

『晩鐘』に描かれる農夫と妻の祈りの姿もまた、この涙と共に種を蒔く人の、そして時とともに、知らぬまに実りを見出し、喜ぶ者の姿に他ならない。私たちは、何かが「見える」ことで安心し、成果が「出る」ことで満足しようとする。しかし神の国は、そうした「見える」世界の外で、ひっそりと育つ。神は沈黙の中で働かれる。

友よ、人の知らぬうちに、神の力は働いている。一日の終わりを告げる鐘の音は、同時に、神のいのちの働きが始まりを告げる鐘でもあるのだ。『晩鐘』の静けさの中に、すでに次の朝の光が宿り、涙の中に、喜びの約束があり、沈黙の中に、神の言葉が息づいている。私たちもまた、この鐘の音に耳を澄ませよう。

岐阜アシラム感想



大垣ルーテル教会にて。水谷姉は前列右。

水谷 小百合
ハレルヤ！主の御名を賛美いたします。

芸術の秋、読書の秋、食欲の秋、そしてアシラムの秋！！今年、私にとって大切な秋が一つ加わりま

した。それは、初めて参加させていただいた「アシラムの会」です。

姉妹のお母様から、岐阜アシラムのご案内をいただきました。初めての参加ですの

で、緊張と、わくわくと色々な思いがありました。

当日、榎本恵先生のメッセージから始まり、エレミヤ書29章を学びました。プログラムの中で「静聴」の文字を見つけた時は、少しばかり、緊張。何故ならば、私は静まって聖書を読む日常が、ほとんどありません。その様な者が「静聴」の時を、どの様に過ごせば良いのだろうか？

と緊張でした。

しかし、神様は、この様な者にも暖かな眼差しで見守ってください。御言葉を通して、語ってくださいました。一節ずつ読み進み、分からなかったらまた一節戻る。神様の深く、濃い交わりの中を過ごして導かれた事。心の中は「やったあー！！！」とガッツポーズです。

神様は、私に何を願っておられ、何を必要としてくださったているのだろうか？その答えが、29章10節を通して神様が導いてくださいました。ハレルヤ！いただいた恵みの喜びを、信仰のファミリーと分かち合う事が出来た事。ファミリーの皆様と主なる神様を共に讃える事、共に祈る事、尊いお時間を過ごす事が出来ました事を感謝いたします。今日まで守られて、

明日も守られて。いつまでも、神様の御手の中で過ごす事が出来る幸せ。アシラムの会、最後は、手を繋いで大きな円を作り、主なる神様に讃美をお捧げしました。

「神ともにいます」皆さんのお顔を拝見しながら讃美をする時、一瞬、ここは天国

かな？と思ってしまうました。

この様な素晴らしい「アシラムの会」に参加する事が叶い、喜びいっぱいです。

来年も、ぜひ一緒にさせていただけたら幸いです。

(同盟福音大垣
キリスト教会)

冬天已經過、雨已經落
愛修會靈性培育と小旅程

王美書 (台灣基督長老教會 台中復興教會牧師)

一、踏話頭

於2025年四月初七到八、我與一羣兄弟姊妹有機會到日本愛修會中心(住址:滋賀県近江八幡市中村町 567-2)、踏伴安娜(Anna) 恰西面(Simeon) 的房舍, 體驗愛修會靈修旅程, 實在非常感謝上帝。

其實, 我真早就聽過愛修會的靈修活動。對台南神學院畢業後, 要受洗做傳道師之前, 台灣基督長老教會總會舉辦一個三天兩夜的培訓會, 然後才抽籤。我在2018年就參與培訓會知照愛修會, 而且每年還有愛修會台灣舉辦。總是, 我因為種種原因無法度去。2024年7月份, 因為復興教會申請總會的我愛台灣宣教方案(以下簡稱 ILT), 受派來本會參與青年撒種4位, 其中一個是榎本光太先生。他也是愛修會靈修中心的主任。在兩個禮拜的共同生活與服事中, 我因為他溫和的氣質與認真負責的服務態度而感動。會記得無論營隊準備到傍晚, 伊透早必然準時晨禱。當營隊與 ILT 的方案結束後, 伊 koh 繼續提供愛修會 Newsletter 以及婚愛修會刊物。真心邀請本會兄弟姊妹去愛修會領受上帝恩典, 成為報答本會兄弟姊妹恩情。

為了更完善地預備去愛修會旅程, 我們母但定用電子媒體交通, 榎本惠牧師與榎本光太主任於2025年2月2日共同來拜訪本會。榎本惠牧師來致謝開行禮拜時紹介愛修會; 榎本光太主任到教會主日學與孩子同樂。彼日, 光太主任陪伴一個因作祈禱手e手工, 彼個因行兩禮拜前開哭哭講無想欲求主日學! 禮拜煞, 榎本惠牧師, 榎本光太主任與我, 教會兄弟姊妹代表張杰夫執事與周樣卿長老夫婦, 還有日本在台留學的青年村上良太郎君為我們進行中文日文的即時翻譯, 共同確認愛修會旅程的細節。

這軟幼路開闊慎e態度, 母但是日本e民族性格, 更有著一份對愛修會靈修e熱情與自信, 深信透過愛修會的靈修行動, 會當互參與e人親身伴上帝e話語, 聖神e引導, 兄弟共同生活份分享中, 得著聖神所賜e權能給氣力, 開轉去日常生活中, 繼續讀經, 默想, 祈禱, 行信仰靈性不斷進步, 活出基督e樣式。

冬は去り、雨の季節は終わった。(雅歌2:11)

愛修會(アシュラム)の靈的養成の小さな旅路。

序章

2025年4月7日から8日にかけて、私は兄弟姉妹たちと共に日本のアシュラムセンターを訪れ、「アンナ祈りの家」と「シメオン黙想の家」に滞在しながら、靈的修養の旅を体験する恵みにあずかりました。心から神様に感謝いたします。

私は以前からアシュラムについて耳にしており、台南神学院を卒業し伝道師として派遣される前、台湾基督長老教会の研修会に参加した際にその存在を知りました。しかし、これまで様々な事情で参加の機会を得ることができませんでした。

2024年7月、復興教会が「I Love Taiwan Mission (ILT)」に参加したことで、海外の青年4名が派遣され、その中に榎本光太さんがいました。2週間の共同生活と奉仕を通して、彼の穏やかな人柄と誠実で責任感ある奉仕姿勢に深く感動しました。夜遅くまで準備が続いても、彼は必ず朝の祈り会を欠かさず守っていました。プログラム終了後も、アシュラム誌を届けてくださり、教会の兄弟姉妹を温かくアシュラムへと招いてくださいました。

2025年2月2日には、榎本恵牧師と光太さんが本教会を訪問されました。恵牧師は礼拝で感謝の言葉を述べ、アシュラムを紹介し、光太さんは主日学校で子どもたちと楽しい時間を過ごしました。その中で、彼と「祈りの手」の工作をした子は、二週間前に主日学校に行きたくないと言っていた子でした。

礼拝後には、恵牧師・光太さん・教会の代表たち・通訳者の村上良太郎さんと共に日本への旅程を確認しました。このような慎み深く丁寧な姿勢は、日本人の国民性だけでなく、アシュラムの靈修に対する深い情熱と確信の表れでしょう。アシュラムの靈修活動を通して、参加者は御言葉と聖霊の導きの中で恵みを受け、祈りと黙想を続けながら、日常の中でキリストの姿を生きる者へと導かれていくのです。(つづく)

王美書(台湾基督長老教会 台中復興教會牧師)

2025年度 アシュラムの天上の友を憶える日礼拝

主の平和

本年も、アシュラムの友のうち、この一年の間に天に召された方々を覚えつつ、恒例の野外礼拝を行います。

シメオンの庭には、モザイク作家・田ヶ原先生による美しい墓碑銘が、年ごとに静かに並んでいます。今年は新たに、後宮松代姉、猪瀬和子姉、そして河村琢郎・耐子夫妻の墓碑が加わりました。

どうか、それぞれの懐かしい友を思い起こしつつ、共に50年のアシュラムの歩みを振り返るひとときといたしましょう。

皆さまのお一人おひとりのご列席を、心よりお待ちしております。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

中道晴夫兄作
(2023.6.7召天日)

故人氏名 (敬称略)	召天日	召天時 在居住地
鈴木 静	2024. 5. 5	愛知
吉川 禮子	2024. 6. 28	大阪
井上 正子	2024. 7. 13	大阪
後宮 松代	2024. 8. 17	滋賀
小林 清子	2024. 9. 14	兵庫
石川あきこ	2024. 10. 27	静岡
長田 光夫	2024	ブラジル
武藤 久子	2024. 12. 24	滋賀
河村 琢郎	2024. 12. 31	滋賀
向井 瑩治	2025. 1. 29	埼玉
武曾 晴美	2025. 2. 22	京都
杉山 武文	2025. 3. 6	大阪
安野 喜仁	2025. 3. 16	京都
田邊 明子	2025. 7. 7	兵庫
奥村 文子	2025. 9. 26	滋賀

日時: 2025年11月22日(土) pm 1:00より

場所: シメオン黙想の家、庭

〈住所〉近江八幡市土田町1191

〈お問い合わせ〉

Tel 0748-33-4030 (アシュラムセンター)

Tel 080-3983-8140 (榎本 光太)

(JR近江八幡駅にお迎え可能。前もってご連絡下さい。)

野外礼拝の予定です。平服でお越し下さい。天上の友の写真をお送り、又はお持ち下さると幸いです。



昨年の礼拝

アシュラムセンター創立50周年記念企画

御挨拶 (一九七六・二月号アシュラム誌より)

(初代常任運営委員長) 檜山 嘉蔵

人聴く時神応えたもう。50年7月半ばであった。アシュラムセンターの候補地を求めて近江八幡に来られましたのは榎本先生御夫妻、加藤堅太郎兄、渡辺玲子姉等でした。

序に今し方電話で売りたいたと云って来た友人の家を参考に案内して見せました。一見して異口同音に「こ



れは素晴らしい、アシュラムの小集会もできる新しい座敷もあり、先生の住居も整っている。それに駅から交通の便もよく、環境もよいし静かである。値段も適当で、これは満点だ」と云って、今日は全く主の導きであったと感謝されました。

早速、大阪の唄野兄の事務所で京阪神の有志の者11名が集まりました。ビタ一文持たずの相談です。神のご事業だから与えられると云う確信が皆にあつて、真剣に祈りました。

僅か数時間で全国にあるアシュラムの友から借入れる約束ができました。神は生きて働いて下さると聖名を崇めて感謝しました。

こうしてアシュラム運動の拠点は、神が与えてくださったのです。

(記念のアシュラムに唄野絢子姉ご参加予定。義父唄野政一兄の祈り継がれ：)

アシュラム誌 一九七五年10月号より

アシュラムセンターより

榎本 保郎

主にある多くの方々の熱い祈りと奉仕によりまして、アシュラムセンターが開設されました。私がこちらに参ったのが9月8日、9月10日より早天祈祷会を始めました。

センターは連日來客の絶えたことがなく、多少隣り近所の人々が迷惑を感じておられるようで、出来る限り静かに語り、祈ろうということになっておりますが、語るうちにそのことを忘れてしまいがちです。現状です。

運営委員会では榎本家の台所を心配され、朝食200円、昼食300円、夕食400円と決めてくださいました。が、いかにもこれでは食堂のようでありますので、一応箱を用意しておくことにしました。そして祈り、交わり、学び、語って、何かを得て夫々の教会に帰って下さい。

但し、私はしばしば出張することがありますので、

予定表をごらんの上御越し下されば結構です。

←アシュラムセンター応接間？
るつこ姉のピアノの前にて。



羅榮光牧師と恵師。台湾にて国際平和アシュラム。10年前。

第20回国際正義・平和アシュラムを前に。なぜ正義、平和なのか。10月3日の早天にて、明かされたこと。

詩 85：11「慈しみとまことは出会い、正義と平和は口づけし…」

20年前、沖縄・伊江島にて、台湾の羅榮光牧師と浜辺を歩きながら「人間の造る平和ではなく、神の与えたもう平和を祈り求める集会をしていきましょう」と語りました。しばらくして、羅牧師よりお電話があり、「正義」も加えて下さいと。神の正義とは、滅ぼすためではなく、人を生かすため。捕囚の民が望んだのは、ただバビロンからの解放。しかし神が与えたのは、もっと深い「平和の計画」。それは正義と平和が結び合う神の国。

私たちも、戦争のない世界を願うだけでなく、関係が立て直され、赦しと真実が抱き合う「神の平和」を求める者でありたいのです。

榎本 恵

シメオンの風6 「てるちゃんの若木」 市橋 恵子

榎本てる子牧師のことを普通に牧師とか、先生と呼ぶ人は私の知る限り誰もいませんでした。生前に彼女が教鞭をとった関西学院大学の教え子の中にも、HIV/AIDSの派遣カウンセラーとして向き合った当事者の中にも。

てるさんはいつでも「てるちゃん」とか「てるさん」と呼ばれていました。そう呼ばせるものが彼女にはありました。自分自身をあくまでも向き合う相手と同じか、あるいはそれより低い目線に落としてその人の話を聞く。

晩年のてる子さんは、自分が病床にあって酸素チューブにつながれているのに、訪れてくれる人々の話を真摯に聞き、精一杯もてなす。一方で自分の生活は昨今のミニマリストが驚くほどに質素でした。彼女は自分を捨て人々を愛しました。

そんなてる子さんを記念する木がシメオンの庭に植樹されています。シメオンの門から玄関へのアプローチに続く青もみじの並木の中であって、周囲とは異なるえんじ色のやや大きな葉が特徴的なもみじです。ほかの木々が紅葉するまで、てるちゃんの若木はそこでひっそりと異彩を放っています。

てる子さんを中心になって設立したバザールカフェで、私は週に一日だけボランティアをしています。そこでは、てる子さん縁の方々によく出会います。先日カフェを訪ねて来られた神学を志す若い人は、てる子さんの教え子のそのまた教え子の方でした。てるちゃんという木がもう次々世代の若木に継がれている。驚くばかりの神様の祝福です。



しっかり根付き、一際目立つ
色！さすがてる子師！

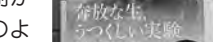
いえじま 雑記 29 「言葉の美しさに惹かれて…」



おかげさまで新しい訳書が出ました。サイディヤ・ハートマンという黒人の作家が書いた『奔放な生、うつくしい実験』という本です。分厚くて、値段も高い本なので気安く買ってくださいとは言えないのですが、とてもおもしろい本です。

舞台は、二十世紀初頭のニューヨークやフィラデルフィアといったアメリカの大都市。奴隷制が
終わった後、自由を求めてこれらの都市になだれこんだ若い黒人の女性たちが主人公です。このよ
うな女性についての記録はほとんど残っていません。ハートマンがこの本で試みたのは、そうした
記録の不在を超えて、黒人女性らの人生や内面世界を想像するということでした。この本を訳しな
がら、僕は福音書の中に出てくる、端役たちのことを考えていました。イエスの服の裾にさえ触れ
れば病が癒されると信じて、そうした女。自分の娘を癒してもらうためにイエスと問答を繰り返した女。こういう人び
とは、名前も書かれぬまま福音書の隅に登場するだけですが、それを読む私たちに深い印象を残します。彼女たちの経
験をどうやったら想像できるだろうか。もしかしたらハートマンの本が手掛かりになるかもしれません。本屋さんなど
で見かけたら、ぜひ手に取ってみてください。

櫻本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）

The image shows the cover of a book titled 'How to Live with a Slave' (どうやって生きればいいのか?) by Hartmann. The cover is dark with white and yellow text. It features a small illustration of a person in a historical setting. The title is written in both Japanese and English. There is also a small quote or endorsement on the cover.

榎本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）



←台湾からアシラムへ。早天祈禱
会後。(3ページの筆者王牧師…右端)



◀9月日光オリーブの里アシラムにて。温泉から樋口兄、佐々木兄94歳。アベル門宣教師、ほっこりと。

苦しくも 神無月にも イエスおりの 陰に 秋の風 逢えり 沖繩・サマリア人 病院にて 病の床にあるとき、心はしばしば沈黙に閉ざされます。祈つても応えがなく、神が遠く離れてしまつたように思える。まさに「神無月」のような日々です。しかし、その「神の不在」の只中にも 主はおられずとも 見えず、語られずとも イエスはそこにおられる——それが信仰の最も深い告白です。やがてある朝、窓をすべる風が頬に触れるとき、ふと気づきます。「日陰にてもうやく逢えり 秋の風——」主は沈黙の中にも息づいておられたのだと。秋の風は、言葉ではなく「気配」として訪れ、声にならぬ慰めを運びます。信仰とは、晴れやかな確信ではなく、日陰に立ちながらもなお「イエスおり」とつぶやく勇氣のこゝたかもしれません。沈黙の神のもとで祈り続ける者に、主は訪れる日、風となつて訪れてくださるのであります。(恵)

あ
と
が
き

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】 0748-33-4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】 080-3983-8140

11月の聖書教室など

7(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)
10(月)	福岡聖書教室 (福岡中部教会 PM1:30)
18(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
19(水)	みんなのカフェちいろは聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
21(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
22(土)	天上の友を憶える日礼拝 (シメオン黙想の家・庭 PM1:00)

11月のアシュラムなど

3月 5(水)	第50回 京浜アシュラム 奉仕者 榎本 恵師	090-2312-5855 江口公一師
7(金) 8(土)	第23回 愛知アシュラム 奉仕者 仙敷 正俊師	052-721-0045 仙敷正俊師
24月 26(水)	第20回 国際正義平和とアシュラム (創立50周年記念) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
24月	50周年記念講演会 (ヴォーリス学園教育会館) 奉仕者 最相 葉月氏 AM11:00~12:30	0748-33-4030 アシュラムセンター 080-3983-8140 榎本光太
25(火)	50周年記念礼拝(ピアザ淡海) 奉仕者 中道 基夫師 AM11:00~12:00	0748-33-4030 アシュラムセンター 077-527-6333 ホテルピアザ淡海
25(火)	50周年記念「すべての地に安息を」 コンサート(ピアザ淡海) 開場 PM5:30 開演 PM6:00 奉仕者 アン・マッシューズ女史(アシュラム創始者スタンレー・ジョーンズ師令孫)、台湾原住民族聖歌隊、長峰更紗(バレエ)、弦楽三重奏(中山ゆき子と仲間達)、ゴスペルシンガー横山太輔・和子、チャイムコンサート	

12月のアシュラム予定

★11/30日 12/2(木)	アドベント・リトリートアシュラム 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
★12/4日 12/6(土)		
7(日)	クリスマス礼拝・祝会 (ちいしばチャペル・アンナ祈りの家)	0748-33-4030 アシュラムセンター
13(土)	みんなのカフェちいしばクリスマスランチ (アンナ祈りの家)	0748-33-4030 アシュラムセンター

2026年1月以降のアシラム予定

2026年1月12(月)～14(水)	第51回 年頭アシュラム
2026年3月2(月)～4(水)	第43回 台湾愛修會

創立50周年のためのご献金感謝いたします

ご献金いただいた方々のお名前を50周年記念特集の協賛として11月発行のクリスチャン新聞に掲載させていただきます。

ご理解、ご協力のほどよろしく
お願いいたします。



みことば



ヒラヒラ舞う花・
Wハウス

日本キリスト教団 豊島岡教会
南花島集会所 牧師 江口公一

8～9章 「この奉仕の業が実際に行われた結果として、彼らは、あなたがたがキリストの福音に従順に公言していること、また、自分たちや他のすべての人々に惜まず施しを分けてくれることで、神をほめたたえます。」(Ⅱコリント9：13)

8章と9章には、エルサレム教会への献金がパウロによって呼びかけられています。目的の一つは、当時エルサレム教会において、より深刻であった貧しい信徒への救済策。もう一つは、割礼を受け律法を熱心に守るユダヤ人キリスト者のエルサレム教会と、パウロが伝道した十字架につけられたキリストを信じる異邦人教会が、一つとされていく交わりの和解です。

この献金は一時頓挫していたようですが、パウロとの信頼関係が神様との和解により回復された事に伴い、再開を呼びかけています。ここで献金は「奉仕の業」と呼ばれます。お金を超えた神様への奉仕です。実際に行われ神様から認められたなら、受け取った彼らは、あなたがたが「キリストの福音」に従順に公言している事を知り、神様が自分たちやそれを必要とする全ての人に惜しまず施しを分けてくれるのです。

「主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。」(8：9)という神様とイエス様の和解が人に及ぶからです。キリストに倣う生き方が従順になされた事によって。その施しが神様によって全ての人に分けられるのを目の当たりにします。それで差し出す側も受ける側も、喜びに満たされ、神をほめたたえます。

この献金は実際に行われ、彼らは「神をはめたたえます。」は実現したのでしょうか？使徒言行録には献金の話は出て来ません。しかし、21：17～20aには、ヤコブと長老たちが皆集まってパウロ達を迎え、パウロが「自分の奉仕を通して神が異邦人の間で行われたことを、詳しく説明した。これを聞いて、人々は皆神を賛美し、」と記されます。この言葉が実現したと受け取れます。

但し、その後パウロはアジアから来たユダヤ人に捕えられてローマに送られます。彼らは神様の施しを必要としなかったのでしょうか。その地でパウロはキリストを証しし殉教死したと伝えられています。キリストを生きたる和解の宣教の礎を築いて。私達の為に。



今日は私の97才の誕生日、後、市馳走（く）下さう。そのすゝさ、市系から市系、市系の子供に、よかつて、満腹（まんぷく）になつて、ハヤ、元氣（げんき）さ、え、起（た）まる、よう、で。

残念です。断念まで頂き、晴まの、愛を、サッとしたこと、平に平に
あやまちです。是れ、成る、花、お水、いめん、なさい、そして、成り下、知子

（病床にあっても、ユーモラスな和子母。年明けて8月、天に。）